

2019

9

September

あきた経済



経営随想

夢ある職場づくりと
付加価値創造会社をめざして

経済の動き

時代とともに変遷する音楽の楽しみ方

講演

貿易戦争時代の日本経済

注目企業

株式会社ドラグーン

コラム

人は動物と話せるか

No. 484



一般
財団法人

秋田経済研究所



全国初！「ご当地レンタカー」で秋田の旅をサポート

～株式会社ドラグーン～ 秋田市



(鎌田社長)

秋田市臨海にある株式会社ドラグーン(代表取締役 鎌田 学氏)は、自動車の販売・整備を手掛けているほか、今年4月、秋田空港の隣接地にレンタカー店をオープンし、秋田県の伝統工芸品の技術を使って車内を装飾した「ご当地レンタカー」で地域の魅力を発信するとともに、秋田の旅をサポートしている。

●創業の経緯

代表の鎌田社長は、県内の自動車ディーラーと中古車販売店で長く営業職を担当したのち、2000年に有限会社ドラグーンを秋田市泉で開業した。

開業当時は、県内では珍しかった中古車買取事業を専門としていた。「買取新世紀カーサット」というオリジナルブランドを立ち上げ、業績も順調に伸びていたが、02年頃よりインターネット一括見積サイト利用者が増加したことに伴い、次第に買取台数が減るようになった。対抗策として05年に大手車買取フランチャイズ「ラビット」に加盟し、それまでの6倍の規模の1,200坪

【会社概要】

- | | |
|-----------|---|
| 1 代 表 者 | 代表取締役 鎌田 学 |
| 2 本社所在地 | 秋田市八橋字下八橋191-22 |
| 支店所在地 | ドラグーンカーズ 空港店
秋田市雄和椿川山籠49 |
| 3 設 立 | 2000年1月 |
| 4 資 本 金 | 1,000万円 |
| 5 従 業 員 | 14名 (2019年7月末現在) |
| 6 売 上 高 | 6億6,000万円 (2018年12月期) |
| 7 事 業 内 容 | 自動車販売・整備、レンタカー |
| 8 T E L | 018-867-8400 |
| 9 F A X | 018-867-8448 |
| 10 U R L | http://www.rabirin.jp |

の土地を借り、中古車展示場を拡大、自動車整備工場も併設して現在地へ移転した。

●「あきたE V研究会」の発足

近年、大手自動車メーカーでは、電気自動車やハイブリッド自動車など環境対策を強化した自動車の開発や実用化が進められている。こうした車両の先進技術は、メーカー各社に情報開示義務はなく、将来的に自動車のE V化が進むと民間自動車整備工場では、修理・点検ができなくなるのではないかと鎌田社長は危惧していた。

そこで既存ガソリン車のエンジンを取り外し、モーターやバッテリーを取り付けて電気自動車に改造する「改造E V」のビジネス化を模索し始め、県内の機械部品製造業や自動車整備業など16社、あきた企業活性化センターなど3団体が集まり、2011年7月に「あきたE V研究会」(会長 鎌田 学氏)を発足した。

メーカーから複数の部品を取り寄せ、航続距離など効率性のテストを繰り返し、同年12月に試作第1号車(ベース車/ダイハツミラジーノ)が完成した。改造EVを製作する際の「コンバージョンEVのガイドライン」(電気自動車普及協議会、2011年4月制定)制定後、県内で初めてナンバーを取得し、公道走行が可能となった。

試作第2号車(ベース車/スズキキャリィ4WD)は、本県の地域性を考慮し、農作業に使う軽トラックを改造EVにした。農作業専用の改造EVであれば、一回の充電での航続距離(一充電当たり約50km走行)を特に長くする必要がなく、一晩の充電で一日の農作業を賄うことができる。ただし、車両に搭載しているバッテリーがまだまだ高額であり、かつトラックの荷台を占拠してしまうことが課題となっており、こうした課題が解決できれば、商用化の道も見えてくる。

●「伝統工芸」×「クルマ」で新たな事業を発想

同社がレンタカー事業に進出したきっかけは、改造EVの取組みが川連漆器の若手職人の目に留まったことによる。職人たちは、伝統工芸品が日常生活から切り離されていることに危機感を覚え、漆塗りのスマホケースや家電製品など新しい用途開発に取り組んでいた。その一つに、川連塗りを使った自動車の内装部品があり、鎌田社長は事業化の可能性を相談された。

鎌田社長は、熟考の末、「伝統工芸」と「クルマ」の接点を「レンタカー」の中に見出し、秋田の伝統工芸品の技術を使って車内を装飾したレンタカーで地域の魅力を発信していくことに思い至った。レンタカー業界は大手数社が寡占し、車両や料金体系は全国ほぼ横並びの画一的なサービスとなっており、秋田に旅行で訪れた方々に、



(秋田の伝統工芸品で装飾した内装)

ご当地感のあふれるレンタカーを提供することによって大手とは競合しないと考えた。

ただ、内装部品の加工は技術的な工夫が必要であった。例えば、シートと天井は絹織物の「秋田八丈」が使われているが、車検の規定で絹織物をそのまま使うことができないため、不燃性素材に加工して車検に対応した。また、絹の伸縮性は低く、シートや天井に合わせて加工するには精緻な技が必要となり、県内屈指の縫製職人の協力を得て、仕立てていった。試行錯誤を経て、2017年8月に全国初となる「ご当地レンタカー」が完成し、レンタカー事業を本格的に開始した。

●今後の事業展開

ご当地レンタカーは、秋田観光の課題である二次アクセス不足を補うことができ、旅行者にとって有力な移動手段となる。同社は、レンタカー利用者に「観光情報タブレット」を用意し、観光情報の提供も行っている。来年度中に旅行業務取扱管理者資格を取得し、自らが旅行プランを立て、秋田への観光誘客を行うことを目指している。

(山崎 要)

鎌田社長からのひと言

県内の企業や官公庁のみなさん！ご当地レンタカーをぜひ県外から来訪された要人の観光接待にご利用くださいませ！